

機器選定におけるポイント

実物投影機

	機器選定のポイント	想定される問題点	機器選定において配慮すべき機能
1	撮影範囲	<ul style="list-style-type: none"> ●提示したい資料や姿が画面に表示できず、学級での共有ができない。 ●児童生徒のノートを投影すると上下が逆になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アームの長さやレンズの性能により、どのくらい小さいものを提示できるか（マクロ機能）、どのくらい大きな用紙を提示できるか（撮影範囲）が変わる。 ○児童生徒の姿をビデオカメラのようにとらえることができるものもある。 ○上下反転やマスクなどの機能があると使いやすい。
2	接続方法	<ul style="list-style-type: none"> ●PCを経由せずに接続できないと、準備に時間がかかり、発表時間などが少なくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用する表示機器に合わせた接続方法を選択する。 HDMI（高画質で音声も同時に転送可能なデジタルケーブル） VGA（PC接続にも使うアナログケーブル） コンポジット（アナログテレビに利用していたケーブル） USB（PCや専用プロジェクター用）
3	操作方法	<ul style="list-style-type: none"> ●ピント合わせやズーム等の操作が容易かつ高速にできないと分かりやすい資料などの提示ができない。 ●児童生徒にも分かりやすい操作表示がされていないと、わかりやすい発表ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ピントを合わせるスピードやズームの使いやすさなどは、カタログ等では分からないので、実際に試してみることが必要。 ○児童生徒でも分かるような操作表示がされていて、直感的に操作ができるものになっているか。
4	写真保存・動画保存	<ul style="list-style-type: none"> ●写真保存・動画撮影ができないと、カメラの前に対象物を置いておかないと提示できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○示範の提示や子どもたちの活動、生物等の観察で、撮影・保存した写真や映像を、繰り返し提示することが可能かを確認する。 ○保存用のメモリスロットがある。（USBメモリ・SDカード等）